

# 富山県に診断士会発足

## 会長は 安川氏 5員のCPDSを支援

富山県コンクリート診断士会が14日、正会員41人、賛助会員4社で発足した。同日、富山市のポルファートとやまで設立総会を開催、安川栄志庄東生コンクリート工業副工場長（富山県生コンクリート工業組合技術委員長）を会長に選出するなど役員を決定。また会則や初年度の事業計画を承認した。来賓として吉田弥一郎富山県建設協会専務理事、石川裕夏福井県コンクリート診断士会会長、羽江司郎富山県生コン工組理事長が出席。また総会後には鳥居和之金沢大学大学院教授が「富山県の反応性骨材とASR劣化構造物の特徴」と題して特別講演を行った。



安川栄志会長

①コンクリート診断技術 ②更新への支援③会員の継続に関する情報の収集と会 ④統学習制度（CPDS）の支援、知識・能力向上 ⑤コンクリート診断士登録、⑥のための活動⑦会員相互

の親睦と連絡などを行う。役員は安川会長のほか、副会長1人、幹事5人、監査役と事務局各1人で構成。事務局は佐藤工業北陸支店土木事業部に置いた。

総会後の懇親会であり、さつに立った安川会長は「劣化機構は多様化しており、個人個人で診断の技量が異なっているのは適切な維持管理ができない。信頼性、技術力向上のために診断士会を設立した。今後は会員を増やし、事業を発展させていきたい」と述べた。

同診断士会は勤務地（支店、営業所など）および居住地が富山県内にある日本コンクリート工学協会（JCI）登録の「コンクリート診断士」を正会員とする。「診断士の技術力向上、改善および『コンクリート診断士』の社会的評価と地位向上に努め、コンクリート構造物の維持管理に貢献し、社会の発展や安全に寄与することを目的とする」（会則第9条）。賛助会員はこれに賛同する法人、団体とした。

具体的な活動としては